

知事と区市町村長との意見交換会(目黒区)

令和2年10月9日(金)

15時55分～16時15分

○**行政部長** それでは意見交換を始めさせていただきます。はじめに知事からお願いいたします。

○**知事** 青木区長、都庁までお越しいただきまして、ありがとうございます。連日コロナ対策に非常にご尽力されておられるということ、本当にご苦労様でございます。お互い様でございますけれども。

コロナウイルスとの戦い、まだまだ予断は許さないと言いましょか。とは言え、ウィズコロナ時代をいかに生き抜いていくかが、問われているわけでございまして、ぜひともこのコロナという、国難と言える状況にも打ち勝つと。そしてウィズコロナという経済・社会活動と連携させるという、新しい日常を作っていくというのが、今の大きな役目だと認識しております。

それと同時に都政の方の構造改革進めておりまして、それを梃子にして新しい日常、サステナブルリカバリーという新たな視点で長期戦略をただいま描いて策定をしているところでございます。

今日は直接お越しただいて、目黒区の現場の様々なお声や、今後についての考えをお聞かせいただきたいと考えております。限られた時間ではございますが、どうぞよろしくお願いをいたします。

○**行政部長** それでは青木区長、ご発言をお願いいたします。

○**目黒区長** 改めて目黒区長の青木英二でございます。知事、こういった個別に私ども区長と意見交換をさせていただくのは、私も区長になって5期目ですけども、余り今までなかったということで、大変敬意を表したいと思っております。私も5期目当選させていただいた直後、すぐお声を掛けていただき、4月21日に個別でお話をさせていただいたが、また、こうして意見交換の時間をいただいたことに、まずお礼を申し上げたいというふうに思います。

前回(昨年)は、記録を見たら10月18日に、お邪魔をしており、あの時は台風19号の直後でしたので、私ども風水害対策をオール東京でというお話を申し上げたんですが、今国難というお話をされており、まさに今私どもも国難というか、大変な厳しい状況、コロナ禍に置かれておりますので、知事がリーダーシップを取っていただき、オール東京でこの国難のコロナ対策に当たっていきなさいいけないというふうに思っております。

今日は3つほどテーマを出させていただいて、1つは言うまでもない、コロナ対策ということですが。

今(今年)、1月30日にWHOがコロナに関して緊急事態宣言を発令して、その次の日に私が本部長で(として、コロナ対応に取り組み)、選挙期間中も私選挙カーに乗らないで一生

懸命やっております、数えたら（対策本部を）55回やっております。どんなことをしたかということは、今この王さんの区報の下の方にちょっと出させていただいておりますが、時間がないので、例えば一番右側のPCR体制については、今医師会、それと5つの病院で一日500（※100の誤り）件のPCR検査をということで、今順調に行われています。

ちょっと手前みそで、PRになりますが、この真ん中へんに目黒の地元商品券、これは総額15億円、50%のプレミアム率で、今多分最も高いプレミアム率であり、大変な評判で、行く先々でこの券を使ったということを言われています。

それから一番被害を多く（影響を）受けているのはシングルマザーの皆さん、向かって右側の目黒区の一人親家庭の支援ということで、児童扶養手当を受けられている世帯のお子さんに5万円（支給）ということで、23区トップレベル。なおかつ2度目を11月に（支給するため、）補正を通していただいた。大変手厚い手当をさせていただきます。

最後はGIGAスクール。オンライン教育を行う。これも後で少しお話を申し上げたいなというふうに思います。

一つはコロナ対策で、もう今私どもも、例えばこれから特別養護老人ホームに入られる方にPCR検査の支援をさせていただいたり、そのエッセンシャルワーカーの方の支援等も行っています。各区でいろんなことを今やっていますが、同じ都民でも受けられる検査と受けられない検査、有料であったり無料であったりということがありますので、知事もこうやってiCDCを立ち上げるといってございまして、ぜひ知事を先頭にオール東京で（医療機関への支援も含め、様々な）支援体制が混乱なく進められるように、まず1点目、お願いをしたいというのが一番大きなお願いです。

2つ目はデジタルトランスフォーメーションについてですが、今知事もお話をされた構造改革をしていますというお話ですが、私ども構造改革という言葉ではありませんけれども、再構築、今までの目黒区政を再構築していこうということで、今若い職員を中心にワーキンググループを作りまして、このデジタルトランスフォーメーションを核として、ICTを活用して、それで私どもの抜本的な区政改革、再構築を今進めているということです。

1つの例としては来年度、今私ども外部の登用ということで、とっても宮坂学副知事さんのような優秀な方をお招きする財源がないんですけども、外部で新たに登用をして、デジタル化を進めていこうというふうに思っています。

各自治体でそれぞれデジタル化は大事ですけども、目黒もやる、他の区もやるというよりも、やはり知事のリーダーシップの下で、オール東京でやっていった方が効率的、効果的ということなので、ぜひリーダーシップを更にお願いをしたいなというふうに思います。

それから2つ目は、学校教育のGIGAスクール化です。私ども大体ざっくり言って42億円ぐらい、これから情報端末等を用意すると、5年間でそのぐらい掛かります。今、国から3億余財政支援がありますので、ぜひ東京都の方からも一段のご協力をお願いしたいというのが、2つ目の大きなお願いです。

3つ目は目黒川の浄化です。これは私もやっとならぬ東京都のご協力もいただいて、この浄化（に

向けた取組)がスタートしました。今後もぜひ東京都、私ども(事務処理)特例条例のもとで今目黒が行っていますけれども、やっぱり都の協力がなければ進められませんので、この計画(取組)がぜひ実現できるように、一段のまたご協力をお願いしたいなと思いますので、取り急ぎ短くやらなければいけないので走りまわりましたが、どうぞよろしくお願ひしたいなというふうに思います。以上です。

○行政部長 どうもありがとうございました。それでは知事からお願いいたします。

○知事 コロナ対策ということではPCRの検査の件数は今、都全体で合わせますと一日約1万件を超える検査体制が整ってきたところであります。実際、例えば今日の数字等でも6,000件がベースになって、陽性者が割り出されているという、そういったところです。PCRセンター、そしてまた帰国者接触者外来等、診療報酬に加えて、都における検査体制の確実な確保ということで、運営費、設備の整備費を補助いたしております。

それから区のPCRセンター、医師会と連携しておられるとのことですが、この場合も運営費そして設備整備費の補助もしておりますので、地域の実情に合った形でのPCRセンターの運営をよろしくお願ひいたします。

また、例えば陽性者が出たことによって、特老、特養等、また障害者の施設等、運営に支障が出るというときに対しまして、影響が多いわけですが、施設の職員、そしてまた入所者に対してPCRの検査等実施した場合の支援を、今回の補正予算で確保措置をしたところであります。

重症化リスク、そして感染拡大のリスクが高いこれらの施設等に対して、独自に行われるPCR検査等の取り組みも支援をして参ることが出来ます。

それから医療施設の方ですが、医療機関の実情はなかなか厳しいというご指摘があったかと思ひます。この件については国の方にも引き続き要望しておりますので、医療提供体制の充実ということはまた確保して参りたいと思ひております。

それからこれぜひ保健所の方の皆さんに改めてお伝えいただきたいんですが、今、家庭内感染を注視していかなければならず、そのためにも陽性になった方々を病院若しくは療養施設、そしてまた自宅ということで3つに分かれるんですけど、ぜひ軽症、無症状者が圧倒的に多い中で、ぜひ保健師さんが判断する際に、そういった軽症、無症状者の方ではできるだけ療養施設の方に入所していただくように、その辺のところは区長の方からのご指導、ご指示をお願いしたいと思います。それによって、ずっと医療施設、また医療の現場の方々への負荷も大変掛かっておりますし、その辺の判断が明確に保健師さんの方でさせていただくことによって、スピード化もできるかと思ひますので、よろしくお願ひを申し上げます。

それからICTのサービスについてなんですけれども、構造改革、都政の構造改革はすなわちQOSって言っているんですけど、よくQOLという言葉があります。quality of lifeと言って、生活の質ということでよく言われますが、都民サービスの質ということでquality of serviceという、そういう言葉を作っております。

これを高めるために行うわけでありまして、例えば教育の現場をquality of

service と言いましょか、quality of education と言うか、それを高めていくためにも、TOKYO スマート・スクール・プロジェクトを進めております。

これは前から進めているんですが、このコロナ禍において、学校の方の休業ということもございました。それをもって更に進めていくというところですし、また区長お話ありましたように、なかなか区の職員でも、都の職員もそうなんですが、IT 人材というのはなかなかこれまでそういう括りでもそもそ採用していなかったと。技官系でもそういうジャンルっていうのが基本的に、あつて電気なんですよね。ということで、都としても新たに来年度からその IT 系の人材も採用するというところで、これまでも進めて参りました。今、目黒の区役所の方でも、そういう人材をということで進めていらっしゃるということでありま。

基本的には国がデジタル庁を作る。そして都道府県、そして更に現場で、特に都民、区民との接点のより多い区の方でデジタル化、オンライン化を進めるというのは、やはりある意味でうまく連携していかないと、費用は掛かるわ、前の分はどうなるんだ、これまでのシステムはどうなるのか等々を考えると、都と区としっかり連携していく必要があるかと思ひます。ぜひそういった意味でも勉強会を、宮坂副知事を筆頭に進めておりますので、ぜひそういったことを通じながら、連携をして参りたいと考えております。

それから生活にこれは直結しますけど、また台風が来て、上陸は今のところはないのかな。

○目黒区長 逸れたみたいで。

○知事 逸れたみたいでありますけれども、前回の台風の時も大変に皆さんもヒヤヒヤされ、実際にいろいろ支障があつたかと思ひます。そういう中で豪雨災害から都民を守るといふことで、まず調節池の整備を、これまでも進めてきていのはご承知のとおりであります。目黒川の流域はもう調節池の事業化に向けた検討を進めておりますし、これによつて安全性の向上に向けた取り組みが着実に推進していくことになろうと思ひます。

それから水質の改善ですけれども、関係局と連携した清流復活事業等によります流水の確保、それから船舶による大規模な浚渫を実施いたしてあります。これは目黒区さん、関係局等からなる水質浄化のための検討会で、技術的な助言を行う。そして目黒区さんが実際に実施しておられる調査であるとか、水質浄化施設的设计等に対する財政的な措置も行つているところであります。

それから下水道ですけれども、川等に放流される汚濁負荷量を削減するというところで、降雨の初期の時に汚れた下水を貯留する施設の整備等を進めてあります。目黒川流域では、これまで約 15 万立方メートルの貯留施設を稼働させてありますけれども、これからも目黒川の水質改善に取り組んで、地域に親しまれる水辺の創出ということを進めていきたいと考えてあります。

○行政部長 それでは青木区長の方から、いかがでしょうか。

○目黒区長 大きな 3 点でお話をいただきました。1 つはコロナ対策に関連してですけれども、今知事からもお話があつたんですが、病院が大変疲弊をしています。私どもはコロナ

のPCRをお願いしていますけれども、5つの病院のみならず、非常に大変な状況になっています。私どもも区のレベルで財政支援はしていますけれども、大体1ベッドで8,000ちょっとぐらいの支援ということで、全く絶対量が足りませんので、知事から今お話があったように、ぜひ病院への、医療機関への支援というのを重ねてお願いしたいなというふうに思います。

それから保健所については、今日、石原保健所長本人も来ていますので、もう私が言うまでもなく、かえって言わなくても済んでいますので、しっかり聞いていると思いますので、特に軽症の方はホテル等そういった所をお願いをして、重症化の人により資源等が当たるように、目黒区としてもしっかり対応していきたいなというふうに思います。

○知事 逆にせっかくいらしているので、保健所の状況をちょっと、現場の声をお聞かせいただけませんか？

○目黒区長 どうぞ。人材を増やしているってこともよく言ってください。

○石原保健所長 ありがとうございます。東京都の方で宿泊療養のための施設を用意していただきまして、また最近はお話をしている、ペットがいるからホテルに行けないっていう声がかれまでも非常に多かったもので、そういったことにも配慮をさせていただいていることに、大変感謝をしております。

なかなか区民の方と直接対話をしている保健師たちは苦勞をしておりますが、何度かお話をするうちにご理解いただけることも多いというふうに伺っています。これからも同居家族への感染を心配される、そういった区民の方も最近が増えております。また、高齢の方、基礎疾患のある方とご同居されている方につきましては、基本的には症状があれば入院をしていただくんですが、最近はPCR検査もスムーズにできるようになって、診断までの期間が短くなっておりますので、ホテル療養を調整したいときには若干お熱があってももう翌日にはすぐ下がるというような、そういう方が非常に多いので、ちょっとホテル療養の基準をもうちょっと緩めていただけると助かるのかなというところもございます。

皆さんやはりテレワークも進みましたので、病室ではなかなかお仕事ができないけれども、ホテルであれば仕事もできるとおっしゃる方もいらっしゃいますので、ホテル療養の在り方については、我々の方からも東京都の方にこれからも現場の意見を伝えて、検討いただければと思っております。ありがとうございます。

○目黒区長 大変頑張って、女性のパワーで、知事と同じで頑張ってください。私どもも会計年度任用職員の保健師さんなどを採用しながら、一生懸命マンパワーでも頑張っています。

それからICTについては、先ほど quality of service というお話があったんですが、ICTをやる目的は、やはりサービスの向上をする、事業の効率化ということなので、そういう点でも私どももしっかり取り組んでいきたいと思っておりますし、やっぱり国がなかなか遠いんです、私ども。デジタル庁って多分出来ても、一度も行くことがないと思うので、東京都と私どもがしっかり連携していくことが大事じゃないかなと思っておりますので、ぜひよろしくお願ひしたいなと思ひます。

それからさっきお話があった目黒川について、本当に今まで全く動かなかったんですけども、知事になってからいろんな局にもご協力をいただいて、一気に動くようになりましたので、また引き続きぜひよろしくお願いしたい。今度来たときはこんなによくなりましたってご報告をできるように、一段のご協力をお願いしたいなと思います。どうぞよろしくをお願いします。

○**行政部長** 青木区長、どうもありがとうございました。それでは最後に知事からお願いいたします。

○**知事** 今日のご要望、長期戦略と、そしてまた来年の予算編成等に参考にさせていただきたいと思います。

それから保健所の皆さんにどうぞよろしくをお願いします。そしてまた車の手配等までいろいろやっておられると聞いておりますけれども、できるだけそういったバックアップ体制を、仕事の負荷を減らすということで、皆で協力しながらできるような、そういうシステムづくりをしていく必要があるかと思います。また、ICTの活用ということで、もう何度も何度も電話されたり、相手が出なかったり、いろいろご苦労があるかということをよく聞いておりますので、そこをむしろICTを活用することによって常に連絡が取れる、若しくはこちらからのお知らせができる、そういう体制等も知恵を使いながら、ICTを使いながら工夫して、また保健師さんならではの仕事に注力していただけるような、そういう関係づくりを都としても考えて参ります。区の保健所は区長の下に在られるので、これからも区長よろしくをお願いいたします。

ペットの方は日本財団さんがペットと同室できる施設を提供してございまして、実は今日からスタートの予定だったんですが、台風の関係で来週の月曜日からスタートになります。ハムスターもオッケーです。どうぞそういう面で。

それから外国の方も目黒はいらっしゃると思いますので、それは外国語の通じる療養施設が東急REIさんがありますので、そちらの方に誘導していただければということです。よろしくをお願いします。

○**目黒区長** はい。ありがとうございます。

○**石原保健所長** ありがとうございます。

○**行政部長** それでは以上で意見交換を終了いたします。本日は遠い所から、ありがとうございました。